



第3回研究員会(富士山学習研究会)

研究授業「正しく知り, 正しく備えよう」

実験を通して親子で学んだ防災の授業 勝山小6年生



右:吉本充宏先生, 左:梶原裕一郎先生

富士山学習研究会の研究の一つとして, 教材名「正しく知り, 正しく備えよう」の研究授業を勝山小学校で行いました。「噴火現象について正しく知り, 火山災害が起こった時, 冷静に判断し, 行動しようとする態度を養う」。ことをねらいとしています。

今回は, 火山防災研究センターの研究と連携して, 実験を取り入れた火山防災教育の授業を提案していただきました。授業者は富士山科学研究所・富士山火山防災研究センター長の吉本充宏先生, 勝山小学校理科主任の梶原裕一郎先生の2名。富士山科学研究所の多くの先生方にもサポートしていただきました。



授業をサポートして下さった富士山科学研究所の先生方

授業では, 子どもたちが模型の富士山の火口から色水を流してその流れを確認し, 噴火の場所によって溶岩流の流れが変わることを学びました。また, 吉本先生自作の実験器具によって火山灰が広範囲に降る様子も見せていただきました。吉本先生からは「溶岩流の速さは, この辺りでは, 人間が歩く速さよりゆっくりになるため噴火してからでも避難はできる。落ち着いてどこから噴火したのか確認することが大事である。」と富士山の噴火について正しい情報の下に



模型の富士山の火口から色水を流してその流れを確認している子どもたち



子どもたちの実験を見守る保護者の皆様

行動することの大切さが強調されました。最後に裕一郎先生から, 「知識を持った皆さんは, これから地域のけん引役として活躍していく立場になる。」と自助だけでなく, 共助の立場の重要性についてもお話がありました。今回は, 授業参観も兼ねて行われたので親子で学ぶ良い機会になったと思います。



吉本先生が開発した火山灰が広範囲に降る様子がわかる実験器具。これは町教育センターにあります。積極的な活用をお願いします。



吉本先生の話真剣に聞く子どもたち

授業終了後の富士山学習研究会において、学校だけでなく富士山科学研究所や町地域防災課とも連携し、町内全ての小中学校で防災教育を推し進めていけるよう更に研究を深めていくことが確認されました。

将来、必ず起こると考えられている富士山の噴火に対し、「正しく知り、正しく備える」ことが子どもだけでなく全ての人に求められています。

西浜小学校 福祉講話会 講師は小林俊介さん

ボッチャ体験 全校 29 名



勝って大喜ぶする子どもたち



小林俊介さんと記念撮影

西浜小学校で福祉講話会が開かれました。対象は全校児童29名。講師は鳴沢村の小林俊介さん。小林さんは10万人に1人の割合で発症する脊髄性筋萎縮症という難病を抱えて生活されています。現在は山梨県ボッチャ協会を設立し、会長兼選手として

活動したり、YouTube 動画投稿、福祉講話活動などを行ったりしています。

前半は、小林さんご自身の生活を振り返りながら環境を整えることの大切さについてお話をしていただきました。今は様々なことが改善されてきているが、「みんなにとって使いやすい環境を整えるためにはどのようにしたらよいのか」という点について子どもたちに考えさせ、その重要性について強調されていました。

後半は パラリンピックの正式種目になっているボッチャを教えてくださいました。これは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツです。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。子どもたちは、ボールを投げる度に歓声をあげて楽しんでいました。



ねらいを定めて投球する子どもたち



みんなで集まって勝敗の確認

障害がある人もない人も共に生きる社会を実現するために、みんなにとって使いやすい環境を整えることの大切さを学んだ福祉講話会でした。